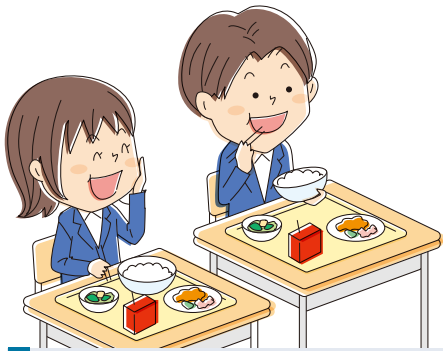
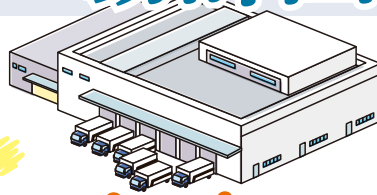


市政を動かす

ストップ! 巨大給食工場計画

市民の運動で追いつめています



京都市は、1か所の給食センター（63校分・2万6千食分）の方針ありきで、強引に進めようとしています。しかし、食中毒の危険、交通渋滞による配送の遅れなど、巨大給食工場のリスクが次々と明らかとなり、教育委員会や他会派議員もそのことを認めざるを得なくなっています。

「巨大給食工場の実施を求める請願」
多数にならず!

自民・公明が紹介議員となった、塔南高校跡地への巨大給食センター方式での実施を求める請願は、自民・公明以外の賛同はなく審議未了で終了しました。

できたて安全 おいしい 小学校のような中学校給食を

巨大給食センターではなく「学校調理」での実施を求める緊急要望署名

ネット署名はこちら



運動をさらに広げよう!



中学校給食問題の市政報告会（4月15日）

日本共産党 京都市会議員団



困ったときには、お気軽にご相談ください
TEL.075-222-3728 FAX.075-211-2130
(平日10時～17時)

みなさんの要望が実現・前進



- ▶ 「木造住宅耐震・防火改修支援」の復活・充実
- ▶ 「体育館へのエアコンの設置にむけた調査」
- ▶ 「不登校児童生徒支援と教員の欠員対策」など
- ▶ 若年がん患者在宅療養支援事業
- ▶ 新法に基づく困難を抱える女性支援
- ▶ 重度心身障害者医療費支給制度の拡充 など

新市長と論戦

くらしの目線で予算の組み替えを提案

全文はこちら



門川市長時代の負担増 敬老乗車証、民間保育園補助金は元通りに

松井新市長のもと初めての2024年度予算は門川市政を引き継ぎ、大型開発を温存し、敬老乗車証制度の改悪や民間保育園人件費補助金削減、各種公共料金の値上げ等を市民に押し付けた「行財政改革計画」を見直すものにはなっていません。

初めての予算市会で各会派の態度が問われましたが、日本共産党以外の会派は、市長提出議案のすべてに賛成、事実上のオール与党となっています。

敬老乗車証制度の交付率激減!

敬老乗車証負担金の改悪で高齢者の足が奪われています。

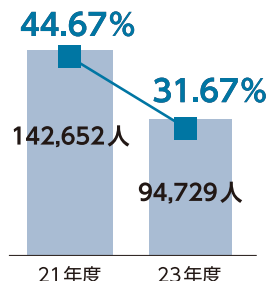
▶非課税の方の負担金 3000円▶9000円

▶敬老乗車証(回数券除く) 利用者3分の2に

48000人減少



交付率
交付者数



保育士・職員の給与カット、退職者も多数

民間保育園補助金が13億円カットされ、4割の保育園で保育士・職員の給与、ボーナスカットが行われ、多くの保育士が退職せざるを得なくなっています。

しかし市長は「(制度の)再構築後も処遇の維持向上を図ることができている」と、全く実態をみない答弁を行いました。

